

京阪伏見桃山駅から伏見稻荷奥社 京都府山岳連盟トレイル委員会



京阪伏見桃山駅



標識東山 F1



御香宮



御香水



境内の蘇鉄

東山コースに付随し、平成 26 年 11 月に新規開設されたコースで、東山「伏見・深草ルート」(略称)「Fルート」と名付けられ、起点は京阪伏見桃山駅で、商店街に続く大手筋通を通り、伏見桃山城を経て大岩山を越え、稻荷奥社迄で約 9.5 キロ、稻荷奥社(標識東山 2-2)で従来の東山コースに接続している。

伏見の町は豊臣秀吉により大いに繁栄したが、関ヶ原の戦いの時に西軍により伏見桃山城は落城し、東軍勝利で西軍に味方した大名の屋敷も多く焼き払われて、伏見の町はすっかり衰退した。

後に伏見城は再建されたが、既に政治の中心は江戸・大坂に移り 20 年ほどで廃城された。江戸時代になり参勤交代制が敷かれ、西国の大名は全て伏見を通過し江戸へ向かうことになり、東海道・中山道も整備され、伏見の町は東海道の宿場町、港町として再び賑わうことになったが、明治維新で首都が東京となり、京都と共に繁栄した歴史を偲ぶ街となっている。

京阪伏見桃山駅の地下改札口を出て、右の階段を上ると大手筋通に面して「Fルート」起点の「東山 F1」の標識がある。

大手筋通の交差点を横断し北側の歩道に渡る。コンビニがあるので飲み物、食料の調達には便利である。すぐに高架の近鉄「桃山御陵前駅」を通過する。

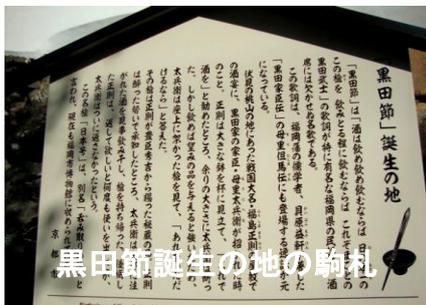
少し行くと大きな石灯籠と石段が歩道を遮っている。御香宮神社である。大手筋通の拡幅に伴い歩道の中央にあった公衆便所は撤去されたが、由緒ある御香宮の構築を移設させる訳にはいかず、歩道が狭まっているのは止むを得ないであろう。

『御香宮:石碑に「府社御香宮村社」とある。府社部分は埋められているがややこしい。由緒ある神社であるが、明治期に官幣神社とされなかったのは、いかなる理由なのであろう。

京都・伏見は、古来、名水が湧き出る地であることから、「伏水(ふしみ)」と呼ばれ、その名水を使った酒の製造が今日でも盛んに行われている。中でも神社境内には日本の名水百選の「御香水」と呼ぶ名水

が涌出する。

この神社はもと御諸神社という名だったが、平安時代に境内から香りのいい水が湧き出し、その水を飲むといろいろの病が治ったことから、時の清和天皇が御香宮「ごこうのみや」神社と改名されたという。



黒田節誕生の地の駒札

明治以降伏見の町は衰退し、泉も涸れていたのを昭和 57 年に復元、昭和 60 年1月に環境庁より京の名水の代表として「名水百選」に認定された。

名水たる証左として茶道や書道に使用され、定期的に行われる献茶会では由緒ある、裏、表、武者小路の三千家の家元が集まられるという。

また、御香宮神社は、安産の神様としても知られており、徳川御三家の祖となった徳川頼宣、頼房、義直は、この水を産湯に使ったとされている。

豊臣家断絶の後、廃城となった伏見桃山城の大手門を、水戸頼房が移築した重要文化財の表門や、徳川家康が建てた本殿の他、三代将軍家光により、小堀遠州が大名になった由縁の庭園など多くの見どころがある。ご香水前の植込みの蘇鉄も見事である。

また、神社は戊辰戦役勃発当初の鳥羽伏見の戦いで、新政府軍(薩摩藩)の駐屯地となり、ここから南方下手にあった伏見奉行所の幕府軍を砲撃する陣地となった。』

御香宮神社の手前に、「酒は飲み飲み飲むならば日本一のこの槍を飲み取るほどに……」で知られる、「黒田節誕生の地」の駒札が歩道横に建てられている。

『槍を所有した福島正則の屋敷は、この場所では無く、別に「桃山福島大夫北町・南町・西町」という広大な区域が地名として残っているが、酒どころの伏見を代表する場所として、御香宮が選ばれ 2014 年に建てられた。

コースは交番の角の 標識東山 F2 から、国道 24 号線の交差点を東に渡る。

交差点を渡ってしばらくの、左手コース脇の児童公園の名は「松平筑前公園」。いかにも伏見の城下らしい名だ。ちなみに伏見には先述の「福島大夫町」「松平筑前」の他、「金森出雲」「長岡越中」「羽柴長吉」「永井久太郎」「筒井伊賀」「井伊掃部」「板倉周防」「水野左近」「本田上野」「景勝」「加賀屋敷」等々、豊臣・徳川時代の武将の屋敷跡を、名前・官名をつけた町名として今も残っている。

JR 奈良線踏切の手前に標識東山 F3 がある。JR 桃山駅からトレイル東山コース-F ルートへの合流は、駅を出て右折し踏切のある広い道路向かい側にある標識東山 F 3、もしくは踏切を渡って坂を登り、次の信号のある鍼灸院前の標識東山 F 4 からとなる。



コース脇の公園プレート



JR 奈良線踏切 標識東山



標識東山 F4



北朝天皇の大光明寺陵



乃木神社

標識東山 F 3・東山 F 4 からでは無く、JR 桃山駅からの別コースも紹介しておこう。駅を出て左折し次の T 字路も左折すれば、南北朝時代に 6 代のみ終わった、北朝の天皇陵「大光明寺陵」



乃木神社名馬の像



明治天皇伏見桃山陵



明治天皇陵前の展望



230段の石段



桓武天皇陵参拝道



桓武天皇陵入口

がある。明治時代に南朝が正統とされたため、歴代天皇に数えられない不遇の北朝「光明・崇光天皇」が合葬されている。

次にT字に合流するゆるい傾斜で直線に延びる道路から、国道24号線、宇治川にかけての「大光明寺陵」を含んだ広大な区域が、かつて豊臣秀吉が築いた「指月伏見桃山城址」で、この道路は築城時に資材を宇治川から運び込んだ「船入り」址ということである。T字路を左折して「船入り」址の道路を奈良線のガードをくぐり、突き当りの右の急坂を登れば乃木神社である。

本コース案内に戻ろう。JR奈良線踏切の標識東山F3を過ぎれば、次の交差点角の鍼灸院駐車場の柱に、標識東山F4が併設されている。標識を良く見ておこう。交差点の道路を横断し直進すると、車進入防止柵のある広い砂利道が真っすぐに伸びている。明治天皇陵への参道である。

トレイルコース標識は無いが砂利道に入らず、自動車道に沿って、次の歩行者用信号のある横断歩道まで行く。寄り道になるが横断歩道を道路対面に渡り、直進すればすぐに乃木神社である。門前に公衆トイレもある。

『乃木神社:若い人にはあまり馴染みは無いであろうが、明治期において、世界に日本を知らしめた日露戦争時の将軍、乃木希典大将夫妻を祀っている。

降伏した露軍の将軍に対する武士道的な対応の逸話が有名。その折、感激した露軍の将軍から送られた立派な2頭の名馬像が社殿前にある。

明治天皇崩御の折に夫妻で殉死された。その縁から明治天皇陵の脇に祀られている。境内には当時の日本軍司令部だった満州の民家と、将軍の生家が移築されている。』

先の歩行者用信号のある横断歩道まで戻ろう。トレイルコースは乃木神社とは反対方向の坂道を登る。桓武天皇陵への参拝路であるが、舗装された林間の静かな散歩道で多くの市民に利用されている。

途中、明治天皇陵への広い砂利道の道と交差する。ここから明治天皇陵へは、約500mの砂利道に行くことになるが、是非寄り道することをお勧めする。

『明治天皇陵:天皇陵のある桃山は、豊臣秀吉の築いた伏見城の本丸跡で、伏見桃山陵(ふしみのもみやまのみささぎ)という。墳墓は山科の天智天皇陵がモデルと聞く。上円下方墳で下段の方形壇の一辺は約60メートル、表面にはさざれ石が葺かれている。

京都に陵が営まれたのは明治天皇の遺言によるものという。東に少し



桓武天皇陵

下がって、皇后の昭憲皇太后の伏見桃山東陵(ふしみのももやまのひがしのみささぎ)が隣接する。天皇陵から京都南部の展望は素晴らしい。正面参道の 230 段の石段は圧巻である。

石段の 230 段には意味があり、23 段毎に 10 か所の踊り場があり、最後の 23 段は御陵前 7 段と加えて 30 段。これは明治 23 年 10 月 30 日、明治天皇が教育勅語を發布された日を記念すると聞いた。石段は市民の絶好のトレーニング場所であり、登頂タイムが競われている。元気な人は挑戦してみるのも一興である。



伏見桃山城入口

足弱の人は、隣接する昭憲皇太后の伏見桃山東陵参道を利用するとよい。天皇陵前の石段には、前述した乃木神社への横断歩道を渡らず自動車道を直進し、幅広い車止め柵のある分岐を左に入れば石段下に到達する。』



伏見桃山城大手門

桓武天皇陵への参拝路交差まで戻ろう。参拝路の木陰の緩い坂を登ると、右側の木の間越しに見える池は「治部池(じぶいけ)」秀吉の寵臣「石田三成」屋敷跡と伝える。伏見桃山城への取り付け道路へ出ると標識東山 F5。標識より北へ参拝路を入れれば桓武天皇陵である。



伏見桃山城天守閣

『桓武天皇陵:桓武天皇は第 50 代天皇、天智天皇のひ孫である。和氣清麻呂の進言もあり、平城京から長岡京・平安京へ二度もの遷都を行い、坂上田村麻呂(さかのうえの-たむらまろ)を征夷大將軍として蝦夷地に派遣、律令国家としての行政改革を計った。

長岡京遷都に当たり、平城京で「南都六宗」と呼ばれるこれまでの仏教勢力を排斥。遣唐使として中国で新しい仏教を学んだ最澄や空海を重用、日本書紀に継ぐ歴史書の「続日本紀」の編纂を行った事でも知ら

れている。』

標識東山 F5 から、伏見桃山城入口標識東山 F6 はすぐであり、天守閣の直下にある標識東山 F7 の先に公衆トイレがある。

『伏見城:伏見城と総称するが、豊臣秀吉が築城した城は関ヶ原の前哨戦で焼け落ち、その後徳川家康が築いた城は元和 9(1623)年に廃城となっている。その後、跡地には桃が植えられ桃山と呼ばれるようになった。以来伏見桃山城と呼ばれるようになったが、当時の本丸跡は明治天皇陵となり。跡地の一部には、昭和 39(1964)年に伏見桃山城キャッスルランドという遊園地が開園し、歴史資料館・展望台として模造天守閣が作られた。その後キャッスルランドは平成 15(2003)年 1 月に閉園し、天守閣も取り壊される運命であったが市民の要望で残されることになった、しかし、当時の耐震基準は現在では認められず、城建屋内は立ち入り禁止になっていたが、平成 30 年秋の台風で屋根瓦が痛み、天守台付近も立ち入り禁止になったことは残念なことである。』

城内にはトイレも整備され、特に春の花見のころは市民の憩いの場所として大勢の人で賑わっており、映画・テレビの撮影、アジアの人たちのブライダル撮影にも大人気場所となっている。



伏見北堀公園



黒田長政屋敷跡の碑



古御香宮



八科峠



車石



仏国寺境内

城内北側のフェンスに向かう踏跡を行けば、フェンス左端が出入り口で、フェンスを出ると遊歩道の三叉路角に標識東山 F8 がある。

標識東山 F8 からやや下りとなる遊歩道を行けば、伏見北堀公園の管理棟前にでる。標識東山 F9 があり公園入り口にトイレもある。

伏見城の北堀跡を公園化したもので、堀跡の側面を巡るジョギングコースも整備されている。公園中央にも遊歩道があるので、公園東端の出入口まで任意のコースを取ればよい。標識東山 F10 が公園の東端であり、左の坂を登れば公園の出入口が標識東山 F11 である。

標識東山 F11 の T 字路を東に直進し、次に突き当たる T 字路が伏見稲荷から藤森神社を経て、宇治に至る宇治街道と呼ばれた道で、T 字路正面に標識 F12 があり、傍には黒田長政の屋敷跡の石碑が近年に整備された。

標識東山 F12 の T 字路をトレイルコースは右折するが、反対側に左折し 200m 程行けば、こんもりとした木立の「古御香宮（ふるごこうぐう）」があり、その道を降って行けば JR 藤森駅に至る。

『古御香宮：秀吉が伏見城築城の折、鬼門の方向に当たるこの地に現在の御香宮を移したが後に家康が元に戻した。ために「古御香宮」と地元ではいい、御香宮神幸祭の節には神輿の御旅所となっている。』

戊辰戦役の折には御香宮の神様が一時避難されたという。境内に「桓武天皇陵墓参考地」がある。社殿の前の大きな石板は参考地から出土した石棺の台石と聞く。』

トレイルコースは標識東山 F12 を右折し、すぐに次の三叉路が標識東山 F13 の八科（やじな、やつしな、やしな）峠である。

『八科峠：古くから伏見と宇治を結び、さらに宇治から大和・奈良へと向かう街道として賑わい、多くの旅人が行き交っていた峠道で懐かしい風情が残っている。』

峠の名は「八」は多い「科」は階段の意味からという説や、矢島という豪族が当地を治めていた所以という説もある。

峠には八科峠の石の道標と歌碑、東海道逢坂峠の車石が旧家の石垣として組み込まれている。』

標識東山 F13 の八科峠の三叉路から、六地藏方面は急坂を直進するが、トレイルコースは標識東山 F13 から左手の緩い坂を降る。

十字路手前の橋上に標識東山 F14 があり。橋から左に折れ曲がるように、急坂を登るのが仏国寺参道である。



鐘楼格天井と英文銘文

『仏国寺:世界文化遺産にも登録された韓国慶州市の寺が有名であるが、京都の仏国寺は黄檗山万福寺に属する禅寺である。

青銅製で鼯(ひいき:中国伝説の竜の子で姿は鼯に似ており重きを負うことを好む)が背負う碑文、「開山高泉碑-重要文化財」が有名である。鼯はことわざの「鼯の引き倒し」の語源。

境内の鐘楼の天井は極彩色の格天井で、釣鐘には英字の銘文がある珍しいもの。

鐘楼脇にある石棺は、古御香宮の桓武天皇陵墓参考地から出土したものである。石板で蓋はしてあるが、径 20 釐程度の穴が開いている謎の石棺である。』



開山高泉碑(重文)

納骨堂の裏手に広がる仏国寺墓地東端から、一段下がった隣接する墓地の上段奥に、安土桃山時代から江戸時代にかけて名をなした小堀遠州の墓がある。



仏国寺の謎の石棺

『小堀遠州:特に江戸初期に従五位下(じゅごいげ)遠江守に任ぜられ、作事奉行として各地で史跡名勝に挙げられる建築・庭園の作事を勤め、後に伏見奉行に任じられた初代小堀政一、遠州宗甫大居士を指す。

古田織部に師事し武家茶道を確立した遠州流の祖、三代将軍家光の茶道師範、又書道でも一派を建て和歌にも通じた文化人。

伏見は江戸時代には交通の要として栄え、政治・経済上重要な地であり、幕府の重要直轄地として奉行所が置かれていた。

小堀遠州の墓は各地にあり、大徳寺の孤篷庵が有名であるが、伏見奉行屋敷で亡くなったということなので当地が埋葬地であろう。子孫の方が建てられた新しい碑文もある。



小堀遠州の墓

仏国寺の駒札には、境内に小堀遠州の墓があると書いてあるが、正しくは仏国寺の管理では無いということである。

以前は鬱蒼とした木立の中にあっただが、周りの樹木が切り倒され明るくなった。参道の急坂が左に曲がる地点から右の石垣端を登ると簡単に到達できる。』



大岩山登山口

標識東山 F14 からトレイルコースは、十字路を左折し水路に沿って住宅街の坂を登り、次の十字路の標識東山 F15 は右折する。十字路対面の石垣の上が古御香宮公園でトイレもある。

さらに住宅街を登ると老人ホームがあり、舗装路はここまでで竹藪の中の地道になる。トレイル補助標識が深草トレイル標柱に共架されている。



標識 F17 JR 藤森駅分岐

かって、この辺りから大岩山の頂上にかけては、産業廃棄物処理業者による違法処理、また、その連鎖による道路への不法投棄物の山が深刻な問題となっていたが、2008 年から行政の法的措置及び地域住民らが協力して、ごみの除去が進められて見違えるほどに美しくなった。2010 年 3 月には大岩山展望台が設置され、市長も参加した完成式典が行わ



標識 F18 大岩山からの展望



大岩神社堂本印象小鳥居



堂本印象大鳥居



白竜池



大岩神社参道入口



深草毘沙門天道標

れ、トレイルコースも開通し、市民の憩いの道として静かな竹林の道となっていた。最近になり頂上付近のゴルフ場が廃業し、その跡地は全て「太陽光発電所」となり景観は一変してしまった。

「太陽光発電所」設置については賛否があるが、一方、山頂の東側一帯の樹木が伐採され地表むき出しの露頭地となり、大量の土砂が搬入されて、平成 30 年（2018）の 7 月の西日本豪雨の折には、山麓の山科区小栗栖地域に土砂災害が発生した。何とか一度は戻った静かな山に再度戻りたいものだ。

現在、標識東山 F17 の JR 藤森駅への分岐道は、土砂盛土部分崩落の危険性があるためか通行止めとなることがある。

標識東山 F18 が大岩山展望所である。京都市内は無論、対面するトレイルコース終盤の西山連峰、遠くは「あべのハルカス」などの大阪の高層ビル群、さらに、冬季の晴天時には淡路島の山影も望むことが出来て、広々とした景観が楽しめる。

トレイルコースは大岩山展望所のデッキ下段から、右の木立の中に降る。すぐにコース正面上部に赤い鳥居が見えるのが大岩神社。大岩神社には標識東山 F19 の分岐を右へ参道を登る。

『大岩神社：心の病、肺病（結核）等の難病治癒に霊験あらたかということで、堂本印象画伯等の有名人も含む多くの参拝者で賑わったが、今は信者も激減し、前年に神社庁に廃神社届けが出された模様で寂寥感が漂っている』。

堂本印象画伯奉納の小鳥居は、大岩神社本殿の左横にある。同じく画伯奉納の大鳥居は、標識東山 F19 から 10 分ほど降った岩滝社にある。

いずれも通常の鳥居とは異なり、大岩神社・小岩神社と彫り込まれた扁額を、女神らしき人物が支えている。後ろには兎と鳥が彫られ、柱には毘沙門様らしき像と地蔵様が彫り込まれている。いかにも堂本印象画伯らしき奇異で独特の雰囲気がある。

岩滝社も 2016 年以降の相次ぐ台風により、無残なほどの倒木被害を受けようやく片付けられたが、周囲が明るくなって神秘的な環境は薄れたが、その下の「白竜池」のたたずまいと共に、京都の有名なパワースポットのの一つである。

大岩神社参道の鳥居を出ると標識東山 F21。交通量の多い大岩街道の歩道を西へ向かい、歩行者信号の横断歩道を渡ると標識東山 F22 である。府道 35 号線大岩街道。現在の JR 東海線に東山トンネルが出来る大正 10 年（1921 年）まで、稻荷駅を經由し後に奈良線の一部となる旧東海道線が敷設されていた。峠を山科側に下った処から名神高速道路はこの線路跡に建設された。

トンネルが出来る大正 10 年（1921 年）まで、稲荷駅を經由し後に奈良線の一部となる旧東海道線が敷設されていた。峠を山科側に下った処から名神高速道路はこの線路跡に建設された。



旧桓武天皇陵(谷口古墳)



浄蓮華院



仁明天皇陵制札屋形



十二帝陵



深草歡喜天の碑

標識東山 F22 から古い街道の雰囲気を残した道となる。旧大岩街道で、古くは深草少将が山科の小野小町のもとに夜な夜な通ったという伝説の古い街道である。

古い家並の街道を下った変形交差点には、フェンス際に標識東山 F23 があり、標識横の石碑には、西面には「深草毘沙門天」、裏面には「桓武天皇陵」と刻られた石碑がある。裏面の刻字のほとんどが石灰様のもので埋められており、桓武天皇陵案内石碑が深草毘沙門天の案内に流用されたようだ。

「深草毘沙門天」とは、トレイルコースを北に行った浄蓮華院(じょうれんげいん)に安置されている鎌倉時代の仏像。

水路に沿った道を北へ行けば、左手の門扉越しに前面が広場で特異なモスク様の屋根を持つ白亜の建物がある。よく見れば軒の飾り文様は「菊の紋章」である。この建物の裏の小高い塚が「旧桓武天皇陵」と伝承される「谷口古墳」。北隣が浄蓮華院の門で、江戸時代に桓武天皇の菩提のために建てられた天台宗の寺である。

浄蓮華院を過ぎるとすぐに道路脇に仁明天皇(深草)陵の制札屋形(屋根付名札)がある。制札屋形は道路沿いにあるが、御陵本体は民家の間を抜けた先にある。

仁明天皇は第 54 代天皇。在位 833~850。嵯峨天皇の第 2 皇子。名は正良(まさら)。母は橘嘉智子(檀林皇后)。深草帝とも称する。

標識東山 F24 で名神高速の下を潜り、標識東山 F25 を左折し高速道路に沿って行くと、三叉路の突き当りに標識東山 F26 がある。

標識東山 F26 を右折して一筋目左角、防火水槽と書かれたガレージから奥に斜め左に伸びる地道がある。突き当りは小広場で JR 奈良線の線路敷に接しており、ここが旧東海道線の接続点で、京都駅からの旧線路は奈良線として利用されている。斜めの地道も名神高速道路敷から、大岩街道を経て伸びてきた旧東海道線線路敷跡である。

次の左へ分岐する道路を行くと、JR 奈良線の手前に「深草北陵」がある。「十二帝陵」ともいい、動乱の南北朝時代から戦国時代末期まで、300 年程の 12 代もの歴代天皇が合葬されているが、公式には歴代天皇に数えない北朝 2 代の天皇も含まれている。

天皇陵というと古墳を思い浮かべるが、「深草北陵」は仏教風のお堂(法華堂)が正面にある。この時代に火葬の風習が広がり寺院に納骨することも多く、戦乱の南北朝時代から戦国時代には、皇室の財政難も合葬の背景として考えられる。

「深草北陵」敷地東端に接し、細いアスファルト道を北に入ると奥が「嘉祥寺」、日本最古の大聖歡喜天を祀る。秘仏で近年の御開帳の記録も無い。小さな境内にある大きな石塔は十二帝供養塔。



真宗院



大界外相の碑



円空立信上人本廟への石段



山脇東洋と一族の墓



日観亭旧跡の碑



アエラ火山灰の堆積物？

嘉祥寺から街道に出て標識東山 F27 の手前の古刹が「根本山真宗院」(しんしゅういん しんじゅいん)。浄土宗西山深草派の寺院で根本山は山号である。

『真宗院:開山は円空立信(えんくうりっしん)上人。この深草の地から夕方に西山(三鈷寺)を遥拝し、日想観(日没を見て西方極楽浄土を想う)を修行するに適した地であるとされた。後嵯峨上皇や後深草天皇が帰依され、後深草天皇からは「真宗院」の勅号を賜った。山門の脇に立つ碑の「大界外相」とは、ここから聖域の意味で奈良東大寺、唐招提寺等の名刹で見られる。

真宗院では、天明五年(1785年)当時の伏見奉行・小堀政方の悪政を幕府に直訴し、伏見町民の苦難を救った「天明伏見義民一揆」で七人の義民同志は真宗院で度々会合を持ち、天下の禁である幕府への直訴計画を練ったという。結果、小堀政方は奉行を罷免されたが、七人の義民も禁を犯した罪で投獄され、獄中で相次いで病死したという。命を賭けて町を守った義人達の顕彰碑は、御香宮神社他伏見各所に建っている。小堀政方は小堀遠州の6代目の子孫である。』

標識東山 F27 を右折し真宗院の裏門あたりから、左手の山手に延びる石段を登ると、開山堂(開山円空立信上人本廟)があり、また石段の途中から左に入ると、日本人で初の人体解剖を行い、詳細に人体構造を観察した解剖学者山脇東洋とその一族の墓がある。西側が開けた同墓地のはずれに、日想観を修行する別亭「日観亭旧跡」の碑があり、西山に沈む夕日が良く見える

コースは深草トレイル標柱に同掲する標識東山 F28 から左折し、小さな峠を越す。この辺り春はさくら・桃の花が咲き誇り、秋には柿がたわわに実るまさに桃源郷を思わす風情がある。峠の右の崖には磨き砂を思わす堆積物の露頭がある。

これは太古の昔、鹿児島湾で大噴火した古アエラ火山から飛来した火山灰堆積物の露頭と聞いている。峠を降れば三叉路で深草トレイル標柱に標識東山 29 がある。

標識東山 F29 を右に行けば標識東山 F33 の辻にバイパスする。

トレイルコースは標識東山 29 を左折し次いで標識東山-30 を右折する。標識東山 F30 の正面の建物は「京都工学院高校」である。

この先の標識東山 F34 から稲荷神社へのコースは、稲荷山の東山麓を巡る道となり、末広滝、御剣の滝、白菊の滝、七面の滝、鳴滝、青木滝、弘法滝の順に行場が並び「お滝行場道」という。



白菊の滝



末広の滝分岐



伏見城の見える展望地



生き返った桜の古木



弘法の滝入口



「お滝行場道」とトレイルコースは標識東山 F34 の中間の鳴滝、青木滝間で合流する。

トレイルコースは「京都工学院高校」角の標識東山 F31 を直進するが、標識東山 F31 を左折し坂を越えれば、昭和 32 年建立の仏教系の新興宗教中山身語正宗の「中山不動尊・完宗院」。

その先の行場「弘法の滝」を抜ければ「お滝行場道」と合流し、稲荷神社奥の院への最短バイパスコースである。

正規コースの標識東山 F31 と標識東山 F32 の中間に、綺麗なウォッシュレット付き観光トイレが近隣のご厚意で整備されている。

標識東山 F32 を左折し倉庫跡らしい廃屋の横で、手すりのある小道を登れば同じく「お滝行場道」に合流する。

標識東山 F33 を経て、標識東山 F34 が「白菊の滝、御剣の滝」分岐で、稲荷奥の院へ至るトレイルコースは標識東山-F34 を左折する。

標識東山 F34 は「お滝行場道」の中間で、右折し白菊の滝、御剣の滝方向に向かえば、奥まった七面の滝、鳴滝があり、次いで白菊の滝、御剣の滝を過ぎると末広の滝に至る。末広の滝の裏から狭い階段を登り、「七曲り」の急坂を登れば稲荷山一の峯へ登れる。この辺り夏には可憐な「しゅうかいどう」が自生し、如何なる訳か、欧米人に人気があり手書きの英文の案内表示が多い。

末広の滝手前を直進し懸崖作りの「大岩大神」に登り、「大岩大神」から山道を辿れば、伏見区と山科区を分ける峠に登りつく。

峠から左折すれば、途中「七曲り」の急坂と合流し、一の峯への赤い鳥居が連立する巡拝道に至る。峠から右折すれば、最奥のお塚を過ぎて稲荷山三角点（点名西野 239.0m）に至る。稲荷山三角点では展望は全く無く、三角点から標識東山 5 へのルートもあるが、迷いやすいので峠まで戻り、一の峯から「お山巡拝路」を「四辻」まで戻ることを勧める。

標識東山 F34 の分岐から、稲荷への「お滝行場道」へ入れば、すぐに竹林越しに展望が開け伏見桃山城が望める。

次いで樹幹が真っ黒に塗られた木は、枯死寸前で持ち主が大変な手間を掛け生きかえさせられた桜で、年々樹勢も生き生きと美しい花を咲かせている。

やがて「青木ヶ瀧」、青木大神とは「猿田彦尊」とあり「天狗様」をお祀りしてある。次いで「弘法の滝」滝行場は全て神仏習合で祭祀されており、鳥居の中に弘法大師がお祀りしてある不思議な

光景が見られる。境内は滝の音のみが響き、聖地らしい厳肅な雰囲気静かにお参りさせて頂



竹之下道

こう。「弘法の滝」を過ぎると竹林の中の道、かぐや姫伝説のある「竹之下道」となる。やがて「伏見神寶神社（ふしみかんだからじんじゃ）」。



竹の下道と神寶神社

『伏見神寶神社：天照大御神を主祭として稲荷大神を相祠する。古代の豪族物部氏と縁が深く。創祀は平安期の稲荷神社が山上に創祀された頃と云う。神寶と称するのは、仁和年間(885～889年)宇多天皇から(沖津鏡、辺津鏡、八握剣、生玉、死反玉、足玉、道反玉、蛇比礼、蜂比礼、品物比礼)の十種の神寶が奉安されているからである。物部氏祖神の饒速日尊が天上よりもたらしたとされる。

これらを授かるときの教えが「布瑠之言」である。「もし痛む所有らば十の寶を、一二三四五六七八九十と唱えて、ゆらゆらと振るえる如くせば、死人も生き返らむ」という大変なお宝である。



狛竜？(天竜)

境内には竜に関わるものが多く、狛犬ならぬ狛竜、向かって左が地龍、右が天龍。口の中の玉を回すと願いが叶う。「水面に頭を出した龍」の石像、こちらにも稲荷奥の院と同様の「重かる石」があり、男性用と女性用がある。

お札には竹林の中の社殿から、かぐや姫にあやかり雛人形のような「叶え雛」。軍事を司った物部氏ゆかりの「隼人の盾」を模し、「魔除渦巻お守」(隼人の盾黒朱の二重螺旋)等がある。

竹製の鳥居もあり、精細な「大友家持」の小像。その他盛り沢山の縁起物が揃っている。深草ルート最後の立ち寄り場所である。』



深草ルートの終点、東山 2-2、東山 F35

「伏見神寶神社」を出て坂を降れば、F ルート終点で東山本コースとの合流点、観光客が輻輳する「ひざ松様」前の東山 2-2、東山 F35 標識である。

※ 参考資料 深草稲荷（深草稲荷保勝会編）他

「所要時間参考」 京阪伏見桃山駅 F1 (20分← →25分) 伏見桃山城 F7 (25分← →25分) 八科峠 F13 (20分← →30分) 大

岩山展望所 F18 (30分← →25分) 大岩街道横断 F21 (15分← →10分) 名神高速トンネル F24 (30分← →35分) 白菊の滝分岐 F34 (30分← → 30分) 東山コース合流 F35/東山 2-2

《 京阪伏見桃山駅東山 F1 (2時間 50分← →3時間 00分) 稲荷奥の院東山 F35/東山 2-2 》

伏見桃山～伏見稲荷間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 東山」です
地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください